

令和3年度の学校評価

○ 自己評価結果等

本年度の重点目標	① ICT機器を活用した授業、教材作成や既存の教材の活用を通して「主体的対話的で深い学び」の視点に立った授業の実践を図る。 ② 校内におけるさまざまなルールを見直し、状況に応じて適切に対応できるように、自ら考え判断できる子を育てる。 ③ 異年齢集団での学習や生活場面を通して、相手を思いやったり、将来の自分の姿を思い描いたりして、共に育ち、高め合う実践を推進する。 ④ セルフマネジメント能力を高め、業務の効率化を図り、教職員の多忙化を解消する。		
担当(項目)	重点目標	具体的方策	留意事項
教務部	ICT機器を活用した授業実践を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 情報モラルに関する内容を適宜取り入れる。 ICT機器や既存のオンライン授業等を活用した授業を取り入れる。 必要に応じて動画等を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の発達段階に応じた情報モラルに関するルールを職員間で共通理解を図る。 授業での活用方法を振り返り、よりよい活用方法を考えていく。
いじめ防止等	互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けられるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 心のアンケートを年2回実施したり、日々の子供たちの様子を把握したりすることで、気になることがあれば、支援や配慮を適時行う。 情報は職員ですぐ共有する。 保護者・学校との連携を密にし、共通理解を図りながら指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「愛知県のいじめ防止基本方針」を周知する。 幼児児童生徒一人一人に、自分が大切にされている実感をもてる指導・支援を行う。 信頼関係の構築に努め、子供たちがすぐ相談できる関係・環境をつくる。 気になる事象があれば迅速かつ組織的に対応する。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止	セルフマネジメント能力を高め、業務の効率化を図り、教職員の多忙化を解消する。	<ul style="list-style-type: none"> 定時退校日を設定せず、教職員一人一人が意識して時間外勤務時間の管理を行えるようにする。 スリム化できる業務を教職員全員で考え、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務管理の意識を高められるよう、先進の実践例等を職員会議等で教職員に周知する。 各行事や分掌の業務内容や進め方の見直しを図り、教職員の業務量の軽減を図る。

○ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業実践を進める。(教務部) 互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けられるようにする。(いじめ防止等) セルフマネジメント能力を高め、業務の効率化を図り、教職員の多忙化を解消する。(教職員の多忙化解消)
自己評価結果について	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの目標を掲げ、それら目標の達成に向けて、学校全体及び各部の実態に合わせた取組を行うことができた。アンケートでも一定の成果が得られたため、自己評価を承認する。
今後の改善方策について	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で取り組む意識を高める。幼児児童生徒の実態に応じて計画を振り返り、改善しながら進める。 一年の取組で終わるのではなく、継続して取り組める方法を検討し実施しながら、定着を図る。 校内研修を重ねて、教員間で効果的な指導・支援について話し合う時間を設ける。また、自主的な研修の意識付けにつながるよう各種案内等を活用し、専門性の向上に努める。
その他 (学校関係者評価委員から出された主な意見、要望)	<p><u>校内参観を通して</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽の授業を参観させてもらった。大型モニターを活用することで、子供たちの興味関心を引き付けているコミュニケーション、子供同士のコミュニケーションは、昔と比べると楽しそうで、意欲的に勉強に取り組んでいると感じた。先生方も頑張って子供たちの指導に当たっている。 見て分かる環境づくりをすれば、子供たちは楽しくなり、興味をもち、学んだことが身に付きやすい。新しい発見ができる環境学習は楽しくなると思う。 先生方の日々の実践について、熱心に取り組まれていることが分かった。 <p><u>アンケート結果に関して</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「毎日楽しく学校に通っているか」についてのアンケートについて、両親に言いにくい悩みを抱えている子供がいると思う。悩みを解決するために、豊学校を卒業した先輩に相談できる環境を作るのも一つの方法。勉強のことや社会に出る不安など、何でも相談できる場所が必要。学校の中だけでは限界がある。同窓会も協力したい。 お便りについては、季節のもの、時のものが扱われていると思う。その時々に必要な内容なので、視覚化し、子供たちに興味をもってもらえる話題を取り上げるのがよい。 アンケート結果について、AとBのパーセンテージのずれに着目すると、AよりもBの方が高い項目が目立つ。特に、3「先生は分かるまで教えてくれますか」と4「自分の言いたいことを、正しく伝えられますか」の項目で差が大きい。コミュニケーションのずれの調整をどう小さくするかが、今後の課題だと感じる。

	<p><u>ICT機器の整備に関して</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の利用について、「使えばいい」になっていないか。ICT機器を使うことで、聞こえにくさや理解が難しくなっていないかなどの検討も必要。使うことで効果が出たのかが重要になる。 ・Zoomを使つての取組では、生徒がセッティングをしているのか。 <p>→校外との取組では職員が準備を行うが、校内での授業では生徒もセッティングに携わっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの持ち帰りについて、学校はどのように考えているのか。 <p>→コロナで登校できない子供に対しては持ち帰りを認め、Zoomでの学習補償を行っている。</p> <p><u>いじめ防止に関して</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達への思いやりに関する項目は、とても重要。学校で子供の気持ち全てをキャッチするのは難しい。家庭での会話から分かることが多いので、家庭との協力が大切になる。
<p>学校関係者評価委員会の 構成及び評価時期</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成………学校評議員5名 ・評価時期…2月22日実施